

平成27年2月12日(木) 18:00~19:30
かでの2・7 10階 1010会議室

1 開会(地域保健課 丸子主幹)

2 挨拶(地域保健課 栗井課長)

3 出席者

(1) 委員

三戸委員長、會田委員、岡野委員、木谷委員、大山委員、田森委員(6名出席)

(2) オブザーバー

一般社団法人北海道医師会(柿崎課長、須藤主事)

北海道立衛生研究所(長野主幹、石田主幹、市橋主査、三好主査)

北海道教育庁学校教育局健康・体育課(島瀬指導主事)

北海道保健福祉部子ども未来推進室(中村主査)

(3) 事務局

地域保健課(栗井課長、丸子主幹、小山主査、清水主任、井上専門員、大矢主事)

4 議事

(1) 麻しん・風しんの発生状況について

(事務局から資料1に基づき説明)

三戸委員長	3ページ目の麻しんの発生状況ですが、岩見沢で13週目から続けて発生していますが、これは2次感染なのでしょうか。別々に発生したのか、それとも同じ地域、職場等から発生したのか、もしわかれば教えてほしい。
事務局	岩見沢保健所管内では、7名発生しましたが、うち5名については、疫学的リンクがありました。他の2名については、不明でした。5名については、1名の患者を発端とし、その患者が受診した医療機関の患者や職員が罹患した例でした。
三戸委員長	院内感染の可能性が有りますね。
事務局	補足しますと、事後の対応が早く、保健所から郡市医師会に依頼し、全医療機関に注意喚起や2次感染のリスクについての情報を流してくれたこと、市町村の反応も良く、広報等を通じて速やかに麻しん発生のお知らせし、罹患歴がないワクチンの未接種者に対し、予防接種を推奨するなど広報で呼びかけたことなど、比較的、医師会・市町村と連携して速やかに対策できた事例ではあった。
三戸委員長	それほど長引かないで治まったのですね。
事務局	そうです。
三戸委員長	年齢的に言うと、9歳未満が5名とのことですが、0~1歳児は入っていますか。
事務局	0~1歳児が4名です。
田森委員	0~1歳児のうち1名は札幌市の患者でバリ島の渡航歴があった。予防接種はしておらず、D8型でインドネシアで罹患したと考えられる。
三戸委員長	全国ではフィリピン型が、台風の影響で増えたいが、そういうのがあると感染が広がる可能性が高くなるのでしょうか。 もう一つ、17ページの風しんの方ですが、札幌と稚内で2例ずつですが、近い時期にでているのもありますが、これは院内感染などがあったのでしょ

事務局 三戸委員長 事務局 三戸委員長	うか。 疫学調査を行ったのですが、疫学的リンクは確認されていません。 30歳以上3名となっているが、何歳くらいか。 30歳代2名、40歳代が1名となっている。 やはりそのあたりの年齢なんですね。年上の人は1回かかっているの で、風しんにかかる可能性は低い。 後はよろしいでしょうか
------------------------------	--

(2) 予防接種の状況について
(事務局から資料2に基づき説明)

三戸委員長	北海道の麻しん風しんの予防接種率が94%ということで、後、もう一歩 というところでは。 市町村で温度差があって、意識に差があるのかなという印象を受けます。 1歳半健診の93%から3歳児健診では97%ですが、数字があがるのは定期 接種後に任意で接種していることですかね。
事務局	健診に来た子どもが分母となっているからだと思います。健診に来る子は、 予防接種を受ける割合が高いのでは。逆に健診に来ない子の接種率が低い可 能性があるので、健診未受診者への働きかけも必要。 札幌市では健診未受診者に対する取組はされていますか。
田森委員 三戸委員長	未受診者に対してのアプローチは特にはない。 予防接種率は、だいたい、9月末までは低くて、12月には上昇し、最終 的には90%を超えてくる。就学時健診が10月くらいにあるので、医師会 では健診を行ったときには必ず予防接種を受けているか確認し、受けていな い人には接種するように伝えている。また、3月の第1週は予防接種週間 であり、予防接種を受けるようにというアナウンスしており、その意味では多 少効果があるかなと思っていますけれども、やはり、行政が主体となるもの ですので、行政の方で最初の入学の案内の時など、なにか対応しています でしょうか。
田森委員	札幌市は秋頃に就学時健診がありますので、その際に「麻しん等の予防接 種を受けましたか。もし予防接種をしていないものがあれば接種しましょう」 といった、啓発のリーフレットを毎年お配りしている。
三戸委員長	小学校に入学する前の子が9月末時点で50%位なので、4月位の早いう ちにアナウンスが1回あれば、9月末時点であがる可能性がありますね。
事務局	教育委員会からもおそらく、医師会と同じように、就学時健診に当たって 必要なワクチン接種が済んでいるか、アナウンスしていると思う。
三戸委員長	94%なので、それほど危機を感じる必要ではないと思うが、来年度以降 は是非95%を超えるようにしてほしい。

(3) 麻しん対策について
(事務局から資料3に基づき説明)

三戸委員長	さまざまな関係機関と協力しながら、麻しん対策を行っていることから、 予防接種率の向上につながっていると思いますが皆様いかがでしょうか。
岡野委員 田森委員	さきほどの札幌市の症例は、それ以上の拡大はしなかったのですか。 小児科を受診しましたが、小児科の医師において、健康観察をしていただ いたりしまして、幸い、感染拡大はしなかったものであります。
岡野委員 田森委員	家族の方々は皆ワクチンを打っていたのですか。 そうですね。

岡野委員	そうすると外国に行くとき今回はインドネシアということですが、たとえばアメリカだと6ヶ月過ぎたらワクチンして行きなさいといった勧告があるのですが、そういうのは日本にはない。韓国やフィリピンだとか、東南アジア等に小さい子を同伴して行くときは、そういった勧奨が必要かもしれません。
三戸委員長	感染流行している時期に渡航する場合には、そういうこともやはり考える必要があるのかもしれませんが。 なかなか強制的にするということではないと思いますが、特に大人の方は、渡航する時期や、留学する前は必要ですね。ワクチン接種をしないと留学できませんのでそういう意味では、対策も検討する必要があるかもしれません。 このような対策は今年度も同じように取り組むということですね。
事務局 三戸委員長	そのように考えています。 よろしくお願いします。

(4) 風しん対策について

(事務局から資料4に基づき説明)

三戸委員長	一昨年、全国では先天性風しん症候群が、31例の症例が報告されましたが、北海道ではそのような症例が報告されず幸いでしたが、風しん対策というのは大切なことであります。 2ページ目で風しん抗体検査事業を実施した240名の結果がでていますが、結果、抗体価の低い方が30%近くいたところですが、この方々のその後の風しんの予防接種に関するデータはとっているのか。
事務局 三戸委員長	調査は特におこなっていません。 そのような指導は医療機関の方から検査結果のお知らせがいておりますので、やはり予防接種の勧奨はしていると思いますので、そういう意味では、この年代の方で、30%位。今まで予防接種を行っていないとか、感染していないという方が対象なので、全体的にはこれほど多くはないと思いますが、そういうふうな方々がいらっしゃるのを考えると、今年の3月までの事業ということですのでけれども、来年度は行う予定は全然ないのでしょうか？
事務局	今のところ国の予算につきまして、当初は単年度予算ということであったものですから、道といたしましても、3月をもって終了としているところでございます。
岡野委員 事務局 三戸委員長	指針に関係する国のガイドラインはいつ頃出る予定なのですか。 国に問い合わせたところ今年度中をめどに示される予定です。 一昨年に比べ、今年は患者さんは減っているが、やはり今の現状を考えると抗体価を持っていない方がいらっしゃるの、そういう意味ではやはり先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれる可能性があるということを考えて、この事業もできましたら1年くらい継続してやっていただけると、国にも要望していただいて、北海道のほうからも是非ご意見を出していただきたいと思います。われわれ委員会としても推奨いたします。是非、道の方から国の方に要望していただきたい。
事務局	今年知事選があるものですから、骨格予算を組みます。拡充予算や新規というのは2定議会で議決されるため、いつもの予算検討の時期に比べて時間があるので、今、三戸委員長がおっしゃられたことを踏まえて検討したいと思います。 委員長がおっしゃったように、幸い北海道においては患者は少ないですが、全国においては完全に終息していない。散見されていますので、そういったことを踏まえながら、検討をさせていただきたいと思います。

三戸委員長 風しんの流行がある程度落ち着かない限りは、その可能性は常にあるという
ことを考えていかなければならない。事業を検討していただきたい。

田森委員 札幌市の抗体検査の6月～12月までの実績ですが、2742人でありま
して、抗体価の低い方は32%位ということで、北海道とほぼ同等の結果で
あったと思います。実際、低抗体価の方への接種の勧奨というのは直接には
行っていませんが、医療機関に委託契約をしておりますので、その中で低抗
体価であった場合、引き続き予防接種をしていただくということを基本的な
委託契約の中に勧奨として盛り込んでおりましたので、継続して、予防接種
を打っていただいたのではと考えております。

三戸委員長 やはり対象の年齢層は30%位が抗体価を持っていないという、そういう
意味では危険性がまだ高いといえると思います。

風しん対策につきましても、今後も続けていただいて、風しん抗体検査事
業に関しては、今後も検討していただきたい。

岡野委員 医師の届出ですが、7日以内というのは、感染症法上決まっていますが、
一般的には24時間以内という勧奨は行われているが、法的にはまだ7日以内
ですか。

事務局 そうです。

岡野委員 世の中の流れとして北海道としても感染症法自体はいいのですが、できる
だけ速やかに報告を行わないと、積極的疫学調査の対応も遅れますし、そう
いうことも含めた方がいいと思います。

三戸委員長 なるべく早く情報をいただいた方が体制をとりやすいと思います。

法律で決まっていることなのですけれども、できるだけ速やかに行うこと
を広報するときには言った方がよろしいかと思ひます。

これにて本日の会議を終了いたします。

本日の会議の委員会の状況につきましては、3月の北海道感染症対策協議
会で報告することになります。